

回復期リハビリテーションは これでいいのか？

特集にあたって

昨今の回復期リハビリテーションでは、業務の効率化・合理化も含め、よりスピード感のあるリハビリテーション・ケアが求められている。特に診療報酬改定での実績指数の導入以降、短期間での ADL 向上と、それに伴う FIM の改善率等については、臨床現場で働く多くの OT が意識せざるを得ない状況にあるだろう。一方では、急速な高齢化の進行により、地域においては、医療や介護が必要な状態となっても、住み慣れた場所で人生の最期を迎えることができる環境の構築も求められている。医療と地域をつなぐ「回復期」という重要な時期に、私たち OT は、誰にとって、どのような回復を考えなければならないのか、そして私たちがやるべきことは何か？

本特集では、機能面を見据えた活動参加のあり方や復職支援、外出練習、また集団活動の効果や多職種連携等、回復期作業療法の可能性の幅をご教示いただいた。さまざまな実践を皆さまと共有しながら、「OT だからこそできる支援」の意義をあらためて再確認していきたい。そして目の前の対象者のために、まずは自分たちが動いていく、本特集がそのような行動の原動力となれば幸いである。

(木村奈保美)

企画担当

木村奈保美 (神立病院, 作業療法士)

香山明美 (東北文化学園大学, 作業療法士)

山本伸一 (山梨リハビリテーション病院, 作業療法士)